

花の進化園の植栽変更について (その2)

濱谷修一・信太千帆・大矢祐一郎・佐々木修

広島市植物公園では、開園以来「新エングラの分類体系」に準拠して科名などの表記を行ってきたが、APG (Angiosperm Phylogeny Group) 分類体系が急激に普及している現状に対応するため、平成27年度の夏ごろから「花の進化園」の科の表記と植栽位置をAPG分類体系に準じたものに変更を開始し、27年度中に植栽変更の大部分は終了した。その概要は本園栽培記録の前号にて述べたとおりである。その後、若干の植栽変更があり、また、新しい植栽ではほぼ一年が経過したのでその間の取り組みと今後の課題について紹介する。

<植栽と表示方法>

APG分類体系に準じて「目」ごとに大まかな植栽エリアを設定し(図参照)、その箇所に「目」の説明板を設置した。植栽した個々の植物には和名(または学名の読み)、学名、原産地、科名(APGと新エングラとで科名が異なる場合は新エングラの科名を括弧で囲んだ)を記したラベルを添え、必要に応じてその植物にまつわるエピソードなどを書いた表示板を設置した。

<植栽した主な植物>

以下に示した品目などを目的とする場所に植栽・展示することができた。

基部被子植物

スイレン目

スイレン科：スイレン

アウストロバイレヤ目

マツバサ科：サネカズラ、シキミ

センリョウ目

センリョウ科：センリョウ

コショウ目

ドクダミ科：ドクダミ、ハンゲショウ

モクレン目

モクレン科：ハクモクレン、タイサンボク

クスノキ目

クスノキ科：ゲッケイジュ、ニッケイ

単子葉植物

シヨウブ目：植栽品目無し

オモダカ目

サトイモ科：コンニャク、ハスイモ、カラー

ヤマノイモ目

ヤマノイモ科：ツクネイモ

タコノキ目

ビャクブ科：ビャクブ

ユリ目

ユリズイセン科：アルストロメリア

イヌサフラン科：グロリオサ

ユリ科：チューリップ、ユリ、ホトトギス

キジカクシ目

キジカクシ科：ヒヤシンス、シラー、スズラン

ススキノキ科：トリトマ、ヘメロカリス

ヒガンバナ科：アリウム、アガパンサス、

スイセン、ヒガンバナ

アヤメ科：クロッカス、グラジオラス、アイリス

ドリアンテス科：ドリアンテス

キンバイザサ科：ヒボキシス

ラン科：シラン、シュンラン

単子葉植物(ツユクサ類)

ヤシ目

ヤシ科：シュロ

ツユクサ目

ツユクサ科：オオムラサキツユクサ、

ヤブミョウガ

シヨウガ目

バショウ科：バショウ、チユウキンレン

カンナ科：カンナ

シヨウガ科：ウコン、ミョウガ、ヘデイキウム

イネ目

パイナップル科：パイナップル

イネ科：ススキ、コムギ、オオムギ、サトウキビ

真正双子葉植物

キンボウゲ目

ケシ科：ポピー、タケニグサ

キンボウゲ科：クレマチス、オダマキ

ヤマモガシ目

ヤマモガシ科：グレビレア

ヤマグルマ目

ヤマグルマ科：ヤマグルマ

ツゲ目

ツゲ科：ツゲ

中核真正双子葉植物(バラ類に近い外群)

ダンネラ目：植栽品目無し

ユキノシタ目

ボタン科：ボタン、シャクヤク

マンサク科：フォッサギラ

ズイナ科：コバノズイナ

スグリ科：カシス

ユキノシタ科：ヒューケラ

ベンケイソウ科：セダム、センペルビウム

中核真正双子葉植物（バラ類）

ブドウ目：植栽品目無し

中核真正双子葉植物（バラ類／マメ類）

マメ目

マメ科：オジギソウ、ラッカセイ、ナタマメ

バラ目

バラ科：バラ、イチゴ、シモツケ

ウリ目

ウリ科：ヒョウタン、ゴロシントウリ
シュウカイドウ科：ペゴニア

ニシキギ目

ニシキギ科：ツリバナ

カタバミ目

カタバミ科：オキザリス

キントラノオ目

トウダイグサ科：ホルトソウ
トケイソウ科：トケイソウ
スマレ科：パンジー
アマ科：リナム
オトギリソウ科：ヒペリカム

中核真正双子葉植物（バラ類／アオイ類）

フウロソウ目

フウロソウ科：ゼラニウム
メリアンタ科：メリアンサス

フトモモ目

ミソハギ科：クフェア、サルスベリ
アカバナ科：ツキミソウ、ガウラ
フトモモ科：ユーカリ

ムクロジ目

ムクロジ科：フウセンカズラ
ミカン科：サンショウ

アオイ目

アオイ科：ハイビスカス、ワタ、ゴジカ

アウラナ目

ノウゼンハレン科：ノウゼンハレン
ワサビノキ科：ワサビノキ
リムナンタ科：リムナンテス
モクセイソウ科：シノブモクセイソウ
フウチョウソウ科：クレオメ
アブラナ科：ハナナ、ハボタン、アリッサム

中核真正双子葉植物（キク類に近い外群）

メギモドキ目：植栽品目無し

ビャクダン目

ビャクダン科：ツクバネ

ナデシコ目

イソマツ科：スターチス、ルリマツリ
タデ科：ソバ、アイ
ナデシコ科：ナデシコ、サボンソウ
ヒユ科：ケイトウ、センニチコウ
ハマミズナ科：リビングストーンレージー

オシロイバナ科：オシロイバナ

ツルムラサキ科：アカザカズラ

ハゼラン科：ハゼラン

スベリヒユ科：ポーチュラカ

中核真正双子葉植物（キク類）

ミズキ目

アジサイ科：アジサイ

ツツジ目

ツリフネソウ科：ホウセンカ
ハナシノブ科：フロックス
ツバキ科：ナツツバキ

中核真正双子葉植物（キク類／シソ類）

ガリア目

ガリア科：アオイ

リンドウ目

アカネ科：タニワタリノキ、ヒゴロモコンロンカ
リンドウ科：リンドウ
キョウチクトウ科：ニチニチソウ、ガガイモ
(ムラサキ科) セイヨウムラサキ、ワスレナグサ

ナス目

ヒルガオ科：ヨルガオ
ナス科：ブルグマンシア、ペチュニア、
トウガラシ

シソ目

オオバコ科：キンギョソウ、ジギタリス
ゴマノハグサ科：ビロードモウズイカ
アゼトウガラシ科：トレニア
ゴマ科：ゴマ
シソ科：タマクサギ、サルビア、シモバシラ
キツネノマゴ科：アカンサス、ツンベルギア
クマツヅラ科：ランタナ、バーベナ
ツノゴマ科：ツノゴマ、イビセラ

中核真正双子葉植物（キク類／キキョウ類）

モチノキ目

モチノキ科：イヌツゲ

キク目

キキョウ科：キキョウ、ツルニンジン
キク科：ノジギク、ハマギク、コスモス、
ダリア

マツムシソウ目

レンブクソウ科：ガマズミ
スイカズラ科：スイカズラ、マツムシソウ、
オミナエシ

セリ目

ウコギ科：カクレミノ、キツタ、ヤツデ
セリ科：バセリ、フェネル

＜今後の課題＞

APG分類体系に準じた植栽に変更するにあたり、いくつかの植物が場所を移動する必要に迫られた。しかし、大きすぎて移植すべき場所に移すことができないもの（カツラ、トキワマンサク、モッコク、ウメ、ケヤキ、ミズキ等）、水生、湿地性であるために植えたい場所に適した栽培環境が確保できないもの（ハスやモウセンゴケ等）がいくつかあり、これらは本来植栽されるべき場所と異なるところに植栽されたままとなった。これらについては、「本来どのような植物と近縁であるか」などの補足説明を行い、来園者が理解するための手助けをする必要がある。

旧来の分類体系では、形態の違いと進化の流れを関連付けて説明することができたが、APG分類体系は形態ではなく分子データの比較によって類縁関係を導き出しているため、それが

難しい。また、すべての根拠となっている「系統樹」というものを来園者に理解してもらうことが現状では難しいため、ストーリー性を持たせた親しみやすい解説を行うことが難しくなった。しかし、「いろいろな植物の類縁関係や、植物の進化の流れを来園者に知っていただく」という花の進化園のコンセプトは、植物園の植栽展示のテーマとして非常に重要なものであると考えられるので、今後も守っていききたい。これまで以上に個々の植物の説明を充実させるとともに、科や目を代表する植物を絞り込み、限られた面積でより印象的な展示解説を行なうことによって、まずは来園者が花の進化園の植物に今よりもっと興味を持ってもらえるようにしたい。次のステップとして、親しみを持っていただいた方に植物の進化についての知識を吸収する場として活用してもらえよう管理をしていきたい。

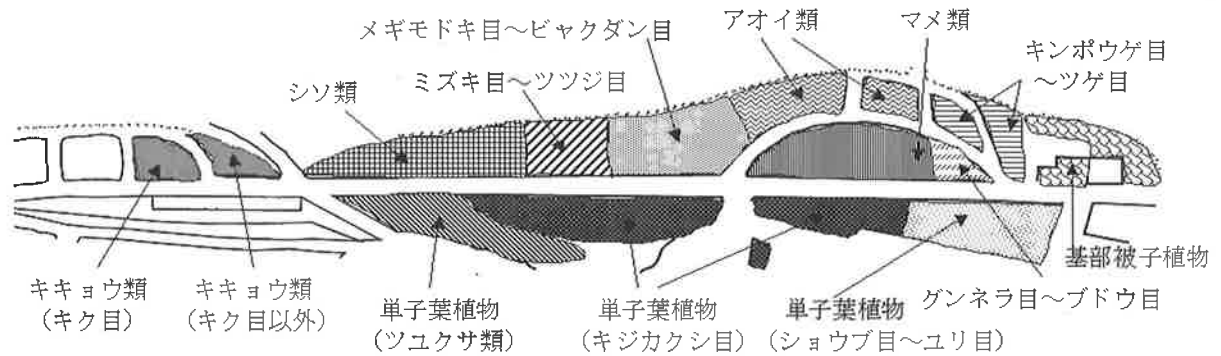


図. APG分類体系に準じた「花の進化園」の植栽区域